

# こだま通信

## 73号・74号合併号



【編集】 特定非営利活動法人こだま

〒690-0048 松江市西嫁島1-1-19

☎&FAX 0852-28-8162

## 事業所のちからが問われる

4年前に神奈川県津久井やまゆり園で起きた、重度障がい者大量殺傷事件の判決が3月に確定しました。犯人の植松被告には死刑の判決が言い渡されました。しかし、誰もが知りたかった彼の歪んだ考え方はどのように形成されてきたか、ということは明らかになりませんでした。しかし一方で3年間のやまゆり園での勤務の中で、彼の歪んだ考えが成長されたのではないかとの見方もあります。

2年前の便り62号で、支援者のちからが問われる実践という文章を書いた。神奈川県津久井やまゆり園の事件のその後を追ったテレビ番組を見て、やまゆり園での支援がどうだったのか、との疑問を持ち、「利用者の力を引き出すのは支援者なのだ」という指摘をした。

今年3月に植松被告には死刑の判決が出され、弁護士は控訴したが、植松被告は控訴を取り下げ刑が確定した。この事件で誰もが抱いた疑問が「なぜ、植松は、重度障がい者に生きる価値はないという考えを持ったのか」ということだった。その後、何人もの研究者やジャーナリストが接見して、彼の人となりを炙りだすことをこころみではいるものの疑問は払拭されなかった。

先日、毎月送られてくるある事業所の便りで、「やまゆり園事件と裁判を考える」という特集が組まれていた。読み進むうちに2年前に抱いた疑問に、やっぱりそうだったんだ、と頷く内容だった。

事件が起こった後に、津久井やまゆり園での利用者に対して、不適切な支援が行われていたのではないかと、行われていた、という証言が明らかとなり、植松が勤務した3年間の中で、「重度障がい者は社会の役に立たない」という歪んだ考え方がより増長された、という判決内容になっている。

3年間の施設勤務の中で、なぜそんな思いを募らせたのか……。裁判の中で友人は証言として『食べる食事が人間として扱われていない、職員が死んだ魚のような目をして希望なく働いている』という言葉が植松から聞いた。と証言している。一体どんな支援が行われていたのだろうか。

支援費制度に始まる障がい者の施策改革は20年も及ぶというのに、旧態然とした職員の都合による傲慢なことが行われていたのではないかと推察される。施設の設置者や管理者はこのような実情に何もできなかったのか？ まさに、事業所のちからが問われる事態だ。

看板やパンフレットにいくら見栄えのいい言葉を並べたとしても、本当の評価はそこを利用する方の評価だ。人に関わる事業所として、その責任の重さを受け止め、利用する方達が求める支援を追求していくことが事業所には求められていると思う。それに応えるちからがないならば障がい者サービスを行う資格はないと思う。

新型コロナによる「緊急事態宣言」が発令された後の対応でも事業所によって、いろいろ分かれるところがあった。利用者の目線に立ち、考え続けられる事業所でありたいと思う。

【山田 久】

## 2019年度 NPOこだま事業報告・決算報告

○2019年度は、分社化に向けての勉強会を精力的におこないました。毎回10人前後の職員が参加して、法人の設立や事業運営の仕方などについて知見を深めていきました。分社化の中心になっていく職員たちからは、いろいろと質問も飛び出しました。12月からは、申請に向けての実務を行い、本年5月より、2つの新しい法人が立ち上がり、新しい事業所として独立することができました。

○8月には、合同実践報告会をポレポレとジョーさんも新しく加わって5団体で松江テルサを会場に開催しました。またあわせて「道草」という重度障がい者が地域の中で暮らしているドキュメンタリー映画を上映しましたが、保護者の方から自立生活の具体的なイメージが描けたと評価をいただきました。

○一昨年の保護者さんとの集まりの中で、ショートステイの利用が難しくなったとの声を聞き、NPOこだまでもショートステイの事業認可を受けました。定員は3名ですが、緊急時に他の事業所では頼めない時に利用していただくようにしています。

○就労Bの事業活動では、昨年度よりも150万円ほど売り上げを伸ばすことができました。クッキー工房では、米粉クッキーに加えてプリン作りも始まり、手頃な価格と美味しさで人気急上昇です。店頭販売をするとたちまち完売するほどです。今後は作る数量を増やし、クッキーと並ぶ人気商品に育てていきたいと思えます。カフェこだまは、ランチが人気となり昨年度より100万円の売り上げ増となりました。利用者の方も少しずつ増えています。パートで働く職員さんもテキパキと接客にあたられ、カフェこだまの雰囲気をもるくもりあげ、リピーターを増やしてくれています。

2019年度 事業収支報告

(単位：千円)

収入の部		支出の部	
生活介護こだま	72,078	人件費	129,834
多機能よめしま	46,959	作業製造原価	7,026
クッキー・カフェ売上	7,455	管理費	28,280
居宅介護・移動支援	52,908	合計	165,142
その他	420	正味財産増減費	14,951
合計	180,093	法人税	1,943
		正味財産増減	13,008

就労Bの売上 (単位：千円)

クッキー	2,642
カフェ	4,813
合計	7,455
就労Bの支出 (単位：千円)	
クッキー材料	1,136
カフェ材料	1,780
工賃	1,166
光熱水費	582
器具什器費	879
リース代	807
その他	677
合計	7,027

2019年度 貸借対照表

(単位：千円)

資産の部		負債の部	
流動資産	50,010	流動負債	6,929
固定資産	15,658	固定負債	0
合計	65,669	合計	6,929
		純資産合計	58,739

## 3 法人に分社しての運営になります

NPOこだまが始まって19年目になります。これまでこだまのサービスを利用いただいた方は200名にのぼります。ここ数年来、次の世代への引き継ぎをスローガンに掲げてきましたが、2年前の春日町のポレポレの独立の以来、バトンタッチは進まないままでした。昨年のNPOこだまの総会で、そのことを議題に取り上げ、これからどうしていくのかを検討し、具体的に方向性を示し担当者を指名して進めていくことになりました。

昨年4月より、この方針に沿って準備を進め、新しく2つの法人を設立して3つの法人で分割運営していくことになりました。今後ますます利用希望者が増える中では、現状のこだまでは新規の方を受け入れていくことが難しくなることをふまえ、街の中にもっとたくさんの事業所を展開して、生き生きと活動する利用者の姿を広げて行こうとの思いです。

12月には法人の設立申請、2月には事業所申請とそれぞれ新しく担当する職員たちが、慣れない書類作りに取り組み、担当課との話し合いを繰り返し事業開始への流れになっていきました。「やったことがなくても、やればできる」きっと若い職員たちには教訓として残ったのではないのでしょうか……。1月には保護者の方への説明会も開催し、分社化することへの理解をいただき、これまでのサービス内容はこれまで通りという確認も行いました。今後分社化することで、よりサービスの受け皿が増えることや、新しいサービスが生まれることなどのメリットについても話し合いました。

事業申請の遅れで当初計画よりひと月遅く5月1日からの分社になりましたが、これまでと変わらない活動を行なっています。先日は第1回目の請求事務も無事に終えることができたとの報告もありました。今後ますます発展していくことを願っています。また、こだまの方も新しい法

2020年4月まで

NPOこだま					
生活介護事業所こだま			多機能型事業所こだま		
ほんそご	生活3	はなみずき	生活介護	クッキー工房	カフェこだま
定員20名			定員10名	定員10名	

2020年5月から

NPOこだま				NPOなないる	NPOみずき
生活介護事業所こだま		就労継続B型事業所こだま		生活介護	生活介護
ほんそご	生活3	クッキー工房	カフェこだま	よめしま	はなみずき
定員20名		定員20名		定員20名	定員20名

人に負けないように若い職員で盛り上げていくものと期待しています。

これまで、生活介護の定員は30名、就労継続支援B型は10名の定員でしたが、分社化したことにより、生活介護は60名の定員に、就労継続支援B型は20名の定員にと倍増し新規の利用者の方の受け入れができるようになりました。

【山田 久】



# 生活介護こだま・今年度の取り組み

## 新型コロナ対策を十分行って活動していきます。

さて、生活介護こだまは5月から新しい体制でスタートしました。同時期に分かれた二つの事業所とも連携しながら一人ひとりに寄りそった支援ができるように、みなさんが地域で楽しく暮らせるように職員一同成長していきます。

今年の初めから皆さんの生活を脅かしていました新型コロナウイルスですが、少しずつ収束の光が見えてきているように思います。また、利用者さんやご家族の方々には可能な限りの自宅での自粛や利用日を考慮していただくなどご協力いただきました。本当にありがとうございました。生活介護こだまでは、○入室時の石鹸での手洗い、消毒・消毒液による各所の消毒 ○マスクの着用 ○3密を避ける体制づくり・公共施設、交通手段を利用する場合の時間帯と混み具合を考慮して利用する。といった対策に取り組んでいます。まだまだ油断は禁物ですので職員一同気を緩めずにこれからも新型コロナウイルス対策を行っていききたいと思っています。

## 新しい利用者を迎えてのスタートです。

去年は、橋北の事業所ができ3つのグループに分かれて、それぞれ特色を出した取り組みを行ってききましたが、今年は橋北の事業所が独立しましたので、2つのグループでの活動となります。そんな中、4月から3名の利用者さんを新たにこだまの仲間に迎えて活動を行っています。毎年のことですがそれぞれの個性が光っていて、一段とこだまの日常が賑やかになりました。先輩の利用者さんも、個性の強い職員さんも少々押され気味です。利用者さん同士の関わりも増え、これからの生活介護こだまが楽しみです。早速、作業や造形にも参加していただいています。今年も一人一人の個性やできることに着目しながらゆったりとそれぞれのペースを大切に活動、支援を行っていきます。

天神に新しくできた活動拠点（天神バス停前のいっぷく亭）を生かしながら、少人数での活動を大切に、造形やものづくり、書道や表現活動など幅広く取り組んでいきたいと思っています。いずれ、アートや音楽が魅力になる生活介護に変身をとげたいと考えているところです。

## 自粛中でも楽しみな活動を・・・

自粛中でも街中では素敵な取り組みが広がっています。「松江エール飯」というキャッチコピーで様々な飲食店のテイクアウトメニューの情報が紹介されています。ほんそごでも日々の昼食の時間を楽しんでもらおうと、一人ひとりの好きなものやご家族からの要望に応じて、毎日数人ずつ市内の飲食店のお弁当を購入してみました。普段とは少し違うおいしそうなおいがほんそごに広がります。周りの職員さんや利用者さんがいいなあ〜とお弁当を覗いていました。みなさん、普段食べられないお店の味を堪能されました。

生活3では利用者さんによるこだまカフェを開催しました。緊急事態宣言が解除され、食事を扱う上での衛生面や席の間隔などを考えながらこだまの事務所のテラスを活用して行いました。準備にも時間をかけ、テーブルクロスやメニュー表、メニューの試作、エプロンまで作るという力の入れようです。衛生面を考えて素敵な包装に包まれたケーキ、三つの味から選べるダルゴナコーヒーとカフェ顔負けのおいしさでした。普段甘いものが食べられない利用者さんもおいしくいただきました。

これからも、コロナに負けない楽しい取り組みをしていききたいと思っています。 【永井 智】

## 就労継続支援B型事業所こだま・今年度の取り組み

### クッキー工房、カフェこだまで単独事業所になりました。

昨年まで多機能型事業所よめしまの就労継続支援B型部門（定員10名）でしたが、今年度より生活介護よめしまが単独事業所となったことから、クッキー工房とカフェこだまで就労継続支援B型事業所こだまとして、定員もこれまでの10名から20名に増員してスターとしました。

4月には、新しい利用者の方をクッキー工房二人、カフェこだまにも一人ずつ迎えました。三人とも、進路を決めるにあたって実習期間中の体験が印象がよかったと話してくれています。そんな三人も含めた利用者の方の期待に応えられるよう、楽しく仕事ができる事業所にしていきたいと思えます。

### 新型コロナの影響で販売をストップしました。

新型コロナの影響で、4月当初より販売については細心の注意を払って行っていましたが、「緊急事態宣言」が出たり、松江市内での感染者が確認されてからは、クッキー工房では事業所を回っての販売はストップすることにしました。また、カフェこだまも営業を停止し、環境整備や普段できなかった片付けなどを行ってきました。そして5月からは、弁当販売を企画し生活介護こだまの利用者や職員の方に利用していただきました。この弁当販売は、食べる人も作る人もとても楽しい活動になり、このまま続けて欲しい、このまま続けたいという声を聞いています。今後新たな作業として取り組めるかもしれません。

### クッキー工房に新しい作業場ができました。

年々利用者が増えるクッキー工房ですが、クッキー工房の現在の場所は手狭になってきたため、乃木駅前ビルの1階に新しいクッキー工房を開設しました。これまでよりも広く、道路に面した前面にはイートインコーナーを設けた販売スペースもできました。これまで、各事業所を回っての販売が中心でしたが、これからは店舗販売もできるようになり、よりこだまの米粉クッキーを知ってもらえるようになります。利用者の皆さんもきっと張り切って作業にあたってくれると思います。

これまでの工房ではプリン製造を主におこなうようになります。昨年秋から作り始めたプリンですが今年に入ってコンスタントな製造ができるようになり、定期的な販売を行なっています。評判はとてよく、卵白を使った白いプリンがより滑らかな食感で好評をいただいています。これからのクッキー工房の看板商品になること間違いなしです。

### 利用者一人ひとりの話をよく聞いていきます。

障害者自立支援法になってから障がい者サービスは、障がい別の枠がなくなりました。利用者の方が利用してみたい事業所を、自由に選ぶことができるようになりました。NPOこだまでも色々な困難を抱えた方が利用されるようになっていきます。そうした中で、障がい者サービス事業所は就労の場の提供にとどまらず利用者に寄り添って、共感して、励まして・・・、そんな機能も必要になってきています。NPOこだまの就労継続支援B型事業所では、一人ひとりのみなさんの声に耳を傾け、関係の方と連携しながら、その人にふさわしい支援をしていきます。



# 2019年度を振り返る

## ほんそこのこの一年

ほんそこの作業は鉢作業、カフェカード作業、旬の製品づくりがあります。鉢作業については納品する製品の工賃の値上げを取引先へお願いさせて頂きました。また、カフェこだまのお客さんも増え、それによってほんそこのカード作業も継続して行うことができました。昨年にも増して、作業工賃アップと安定した収入を得ることができました。

また活動については季節を感じることでできるアクティブな活動を一年通しておこなえたように思います。春には花見、お弁当を持参してのピクニック、夏には海水浴やプール、秋には調理活動や美術館見学、冬にはボーナス支給&クリスマス会。その時期や流行、その日の天気、皆さんの体調を考えながらできるだけ小さい単位で行動し、フットワーク軽く活動を行ってきました。

来年度は“人と人とのふれあい”、“社会での役割”を意識していきたいと思います。“働く”ということの中では労働に従事した時間に応じて支払われる対価と、人と人とのやり取りや自らが社会のなかで役立っていると自覚できることがとても大切です。それをみなさんにもっと感じていただくために、例えば作った製品や納品する物を直接届ける際のやりとりや、製品が使われている様子を見ていただけるように作業や活動を工夫していきたいと考えています。来年度からは小さな単位になった事を活かしながら一人ひとりに合った支援を続けてフットワークの軽い、活動を継続していきたいと思います。【永井 智】

## 生活3この一年

この1年は様々な利用者の方を受け入れてきた1年でした。グループホームにお住まいでお風呂だけをこだまをご利用の方、昼夜逆転してしまった生活リズムを整える為に短時間こだまに通って来てくださる方、ヘルパーさんを使って地域で一人暮らしをしておられるけれども自宅では湯船につかれない為こだまの生活介護で入浴をしておられる方等、様々な理由でこだまを選んで来て下さっています。

入浴がメインの利用者さんには、活動というよりは入浴をしっかりと楽しんでもらうということで、他の方よりも時間も長めにとって満足いくまで入ってもらいます。途中うたた寝をしたり、タオルを熱い湯で濡らして即席のパックをしたり上がる頃には全身がピンク色に染まってとても気持ちよさそうです。昼夜逆転ぎみで生活リズムを整える目的の方は、以前はご本人が起床されてからこだまに電話がかかってきて、迎えに向かっていますが、2、3時間でも外に出る事によって生活リズムも整ってきて現在では決まった時間に迎えに行けるようになりご本人が好きな運動や音楽活動を中心に活動しています。

こんな風にその人に合わせた使い方をしてもらうことが出来た1年でした。これからも色々なケースに対応しながら、ご本人が満足して帰ってもらえる生活介護を目指していきたいと思います。【森山祐子】

## はなみずきこの一年

こだま初の橋北地区事業所として開所しました。開所当初は4人の利用者さんでスタートしました。いろいろと試行を重ね、利用者さんの出入りもありましたが、地域の中で“当たり前”に暮らしていくことに加え、地域の中で“混ざり合って”暮らしていくことを大切にしたいと考えてきました。少しずつではありますが、「はなみずき」の存在が周知されるようになったという実感があります。昨秋の地域の文化祭に参加したことが大きかったと思います。公民館の方には、作業製品を注文していただいたり、牛乳パックを寄付していただいたり、いろいろと気にかけていただいています。わざわざ訪ねてくださる近隣の方もいて、道行くときに交し合うあいさつもとても温かく、落ち着いた街並みの中で、ゆったりと居心地のよい日々が過ごせています。「はなみずき」の作業も軌道に乗



り、毎月カフェこだまやクッキー工房に納品する紙すき製品は遅れることなく、計画的に取り組めるようになりました。利用者さんが得意とされる活動がそれぞれにあり、充実した作業活動となっています。最近では、保護者さんからいただいた線香やろうそくを再利用して'お香'や'アロマキャンドル'作りにも挑戦しています。お陰で事業所にはいつもフローラルな素敵な香りが漂っていますよ。四季折々の自然を体感しながら、しっかり散策もできて、何度「気持ちいいねえ〜！」という言葉を出したことが。「はなみずき」は歩いて出かけられる範囲内にも、名所や公園がたくさんあるので、天気さえよければ室内ではなく積極的に外に出かけ、自然換気の中、安心して活動できることがとてもありがたいです。 【菅 道子】

## 生活介護よめしまこの一年



よめしまの活動は半日仕事、半日は外出と働くことを大切にしています。くろもじ茶、くろもじとどくだみの薬草茶に加え今年度からはくまざさ茶、春限定のくろもじの花茶なども加わりました。毎月たくさんの注文があり100袋以上売れます。インフルエンザの流行る冬となると倍の200袋以上が売られています。たくさんの人に買ってもらえる手ごたえや、美味しいと飲んでもらえる喜びをみんなで感じています。社会と繋がり必要とされることで自信にもつながっているように感じます。いつもは賑やかなよめしまですが作業中はみんな職人さんのようになります。お茶作りにはたくさんの工程があるのですが、みんなどんどん出来ることが増えていっています。利用者さん同士が「やろうよ〜」と励まし合う場面も見ようになりました。仕事は一人ではできません。自分の工程の前後には必ず他の人がいます。同じ目的に向かい刺激し合える関係が出来てきたように思います。そして必要とされることでやりがいにつながり自信につながります。そんな変化というか様子をとっても感じた一年となりました。 【井川 樹】

## クッキー工房この一年

新しく2名の仲間が増えてスタートして1年がたちました。今では来所すると「日にち変えるね」と毎朝、工房のカレンダーの日付を変えてくれます。洗濯した布巾を置いておくと畳んで片付けてくれます。生地押しクッキーの成形を今までは職員も一緒に取り組んでいましたが、最近では利用者さん2人で取り組めるようになりました。この1年で皆さんが「次は・・・」を考えて動けるようになりました。食器を洗っていると布巾を準備されます。自分のだけでなく一緒に作業する人の分まで。食器の拭きが甘いと「もう少し拭いて」と先輩が後輩へ教えてくれます。そのおかげで食器拭きも皆が丁寧に綺麗に拭けるようになりました。先輩は厳しいだけではなく、皆に優しく声を掛けてくれるので作業中も休憩時間も以前より会話が増えました。これからも楽しく作業に取り組めそうです。

そして今年度は「プリン」を販売することができました。店頭販売をすると近所の方や通りかかった方まで足を止めて購入してくれます。「次販売する時も声かけてね」と言って下さいました。毎回すぐに完売してしまうほど人気の商品になりました。 【三上 知加】

## カフェこだまこの一年

2年目のカフェは、すっかり地域の方に愛されるお店になりました。ランチの時間になるとわざわざ橋北からもお客さんが来てくださったり、何組もの常連の方ができています。特に小さな子供づれのママたちに人気で、座敷の二つある席はいつも予約で埋まるほどです。9月に店長の福田さんがおめでたになってからは、パートの職員さんが一丸となってカフェの切り盛りをしてくれてました。利用者の皆さんも、接客にも慣れてそれぞれの役割を果

たしてくれています。1月からは育児休暇を終えて忠田さんが復帰されました。年末には、ほかのカフェも体験してみよう、と少しリッチなランチに出かけ、色々と勉強しているカフェのスタッフです。3月には、食器の入れ替えをしようと、近くの窯元めぐりの爆買いツアーも企画しましたが、おそろおそろの買い物になっていました。それでも、窯元の手頃な食器が揃い、一層魅力の増したカフェになっています。

【山田 久】

## ホームヘルプこの一年

「街のなかでいきいきと」をスローガンに、余暇や生活を楽しむ支援をこころがけているこだまのヘルプ事業です。移動支援では、体験を広げる計画の提案を行いました。回を重ねるごとに、利用者の表情の変化や成長を見ることが出来たように思います。また、自宅での生活支援にも取り組みました。朝の起床支援に、夕方の食事、入浴介助等、生活の場での支援では、利用者の方の生活の維持や家族の方の介護負担の軽減につながることを心掛けてきました。その時間を通して、利用者はもちろん、家族の方との話の中で、この仕事の重要性と携われる事への感謝の気持ちをより強く抱くようになります。

今後も初心の気持ちやこだまの理念を忘れる事なく、利用者とその家族の信頼を得られるようなヘルパー事業所を目指していきたいと思います。

【渡部 健志】

## 大西看護師の健康講座

### 「こころのメタボ・・・」

わたしたちの生活では、さまざまな感情を伴う出来事が日々起こっていますね。人生は悪いことばかりではないといいますが、プレッシャーのかかる仕事や人間関係の不調などストレスを伴う出来事が続くと、私たちは、落ち込んだり、将来に不安を感じたりしてしまいます。

このような状態が続くと、「こころのメタボ」が現れるのですが...

メ 面倒くさい タ ため息をつく ボ ボーッとする  
いわゆる、うつ気分（やる気がでない、マイナス思考が多い）や不安（先のこと気がなる、他人の目が気になる）などの気持ちや症状のことです。

こころのメタボが大きくなってくると、何となくからだがだるくなって、何もやる気がしなくなってしまう。

ネガティブなことに目を向けてばかりいると、「イヤな気持ち」でいる時間がますますながくなり、「こころのメタボ」をどんどん大きくさせます。しかし、自分ができるポジティブな活動に目を向けて、それを行えば「明るい気持ち」でいる時間が長くなり、ネガティブな事柄に目が向く時間が短くなるのです。

そこで『こころのABC活動』

- Aアクト 趣味や音楽、読書、運動や家事などで体を動かす、おしゃべりや長電話
- Bビロング 集まりやクラブへの参加
- Cチャレンジ ボランティア、動植物の世話をする、何かを始めてみる

難しいことは抜きにしても、心地よい時間を増やしてあげることが、がんばっている自分を大事にしてあげることにも通じることだと思えます。反省も大事ですが、時には自分を労らってあげてください。

【大西 知子】

※73号は3月発行予定でしたが、74号との合併号で6月発行になりました。